

#### 4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績（年間の分析試料数）」、「分析（主）担当者以外の分析結果の確認」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

##### ○分析条件等

適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。

複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、測定回数分を記入する場合があります。

##### ○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能です。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

##### ○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、有効数字3桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

分析結果は必須項目です。確定する際に、「分析を実施した」場合には値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件でエラーメッセージ（例えば、「分析結果・・・の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-8参照）。

##### ○分析方法

分析方法も必須項目です。選択されていないとエラーメッセージが表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-8参照）。

##### ○報告書の確定

ホームページでは期限内に報告書の確定を必ず行ってください（「報告書一覧表」から確定したい「報告書」を選択して、「報告書確定」をクリックしてください）。「報告書確定解除」を行った場合も、修正等の後には必ず「報告書確定」を行ってください。詳細は、前記3-8を参照ください。

##### ○アンケート

ホームページから分析結果報告書を作成する機関を対象とした「ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート」及び調査参加機関を対象とした「環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート」を実施しますので、ご協力をお願いいたします。アンケートの記入方法は、後記4-8に示しています。

#### 4-1 分析結果報告書 [1]

表4-1 大気試料1 (PM2.5抽出液試料)

(アニオン成分：イオンクロマトグラフ法) (分析結果報告書 [1])

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、この分析結果報告書 [1] 記入する。

吸光光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、分析結果報告書 [2] に記入する。

分析結果	実施要領5(2)の分析結果の表示方法に従って、大気中の各イオンの濃度 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ) を記入。数値(半角)入力。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。	
開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
<測定条件等>塩化物イオン 試料の希釈 イオンクロマトグラフ メーカー 型式 区分 再生液 検出器 分離カラムの種類 移動相(溶離液の種類) 流量 カラム温度 注入量	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 コボボックスより選択。( )は具体的に記入。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「使用する」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL/分。 数値(半角)入力。単位：℃。 数値(半角)入力。単位：μL。

<測定条件等>硝酸イオン 硫酸イオン	塩化物イオンと同様に記入する。 塩化物イオンの測定条件との違いがない（同じ条件で測定する）場合には記載しなくてよい。
<検量線の作成等>塩化物イオン 定量方法 方法 内標準物質の種類 検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小 最大 単位 最高濃度の指示値 試料 指示値 空試験 指示値 検出下限値	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の濃度等を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。単位：最小と同じ。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 試料中の濃度(単位：mg/L)として記入。
<検量線の作成等>硝酸イオン 硫酸イオン	塩化物イオンと同様に記入する。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃
<アニオン成分分析の経験等> 分析の経験 参考とした分析方法	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

#### 4-2 分析結果報告書 [2]

表4-2 大気試料1 (PM2.5抽出液試料)

(アニオン成分：イオンクロマトグラフ法以外) (分析結果報告書 [2])

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、分析結果報告書 [1] 記入する。

吸光光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、この分析結果報告書 [2] に記入する。

分析結果	実施要領 5 (2) の分析結果の表示方法に従って、大気中の各イオンの濃度 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ) を記入。数値(半角)入力。
------	--

	「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<測定条件等> 試料の量、温度、時間、波長等。	数値(半角)入力。示された単位で記入する。 (例えば、試料の量:mL、温度:℃、時間:分、波長:nm等)
方法、参考とした分析方法等	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
<検量線の作成等>	分析結果報告書[1]の<検量線の作成等>を参照にして記入する。
<試料の保存状況>	分析結果報告書[1]の<試料の保存状況>を参照にして記入する。
<アニオン成分分析の経験>	コンボボックスより選択。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

#### 4-3 分析結果報告書 [3]

表4-3 大気試料1 (PM2.5抽出液試料)

(カチオン成分：イオンクロマトグラフ法) (分析結果報告書 [3])

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、この分析結果報告書 [3] 記入する。

吸光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、分析結果報告書 [4] に記入する。

分析結果	実施要領 5 (2) の分析結果の表示方法に従って、大気中の各イオ
------	-----------------------------------

	<p>ンの濃度(<math>\mu\text{g}/\text{m}^3</math>)を記入。数値(半角)入力。</p> <p>「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。</p>
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	<p>検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。</p> <p>検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字1桁</u>で記入。</p>
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	<p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p>
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法 使用した水	<p>いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。</p>
<測定条件等>	<p>分析結果報告書[1]のイオンクロマトグラフ法の&lt;測定条件&gt;を参照して記入する。</p> <p>カリウムイオンの測定条件との違いがない(同じ条件で測定する)場合には、その他のイオンは記載しなくてよい。</p>
<検量線の作成等>	<p>分析結果報告書[1]の&lt;検量線の作成等&gt;を参照にして記入する。</p>
<試料の保存状況>	<p>分析結果報告書[1]の&lt;試料の保存状況&gt;を参照にして記入する。</p>
<カチオン成分分析の経験等>	<p>分析結果報告書[1]の&lt;アニオン成分分析の経験等&gt;を参照にして記入する。</p>
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	<p>150文字以内で簡潔に記入する。</p>
計算式	<p>150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。</p>

#### 4-4 分析結果報告書[4]

表4-4 大気試料1 (PM2.5抽出液試料)

(カチオン成分：イオンクロマトグラフ法以外) (分析結果報告書[4])

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、分析結果報告書[3]記入する。

吸光光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、この分析結果報告書[4]に記入する。

分析結果	実施要領5(2)の分析結果の表示方法に従って、大気中の各イオンの濃度( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )を記入。数値(半角)入力。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<測定条件等> 試料の量、温度、時間、波長等。 方法、参考とした分析方法、バックグラウンド補正、フレーム等	数値(半角)入力。示された単位で記入する。 (例えば、試料の量:mL、温度:°C、時間:分、波長:nm等) コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検量線の作成等>	分析結果報告書[1]の<検量線の作成等>を参照にして記入する。
<試料の保存状況>	分析結果報告書[1]の<試料の保存状況>を参照にして記入する。
<アニオン成分分析の経験>	コンボボックスより選択。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

#### 4-5 分析結果報告書 [5]

表4-5 大気試料2(捕集管吸着物試料)  
(アルデヒド類)(分析結果報告書 [5])

ふたつの方法で分析した場合には、ひとつの方法をこの分析結果報告書 [5] に記入し、他方は分析結果報告書 [6] に記入する。分析方法 (HPLC、HPLC/MS(/MS)、GC/FTD、GC/MS) により記入の必要な箇

所が異なるため、該当する箇所記入する。

分析結果(アルデヒド類)	実施要領 5 (2)の分析結果の表示方法に従って、大気中の各アルデヒド類の濃度( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )を記入。数値(半角)入力。 試料(捕集管)は2個(A、B)あり、Aを1回目とし、Bを2回目として回数2回までの分析結果を記入する。なお、ふたつの方法で分析した場合には(A、Bを異なった方法で分析した場合には)、ひとつの方法をこの分析結果報告書〔5〕に記入し、他方はこの分析結果報告書〔5〕に記入しない(他方は分析結果報告書〔6〕に記入する)。分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	<b>2回の測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、指示値等については、測定回数分を記入する。</b>
<試験液の調製 (捕集管からの溶出操作)> 試験液の調製方法	コンボボックスより選択。
1. HPLC又はHPLC/MS (MS/MS) 溶出溶媒 種類 流速 使用量 溶出液 定容量	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。 数値(半角)入力。単位:mL。
2. GC/FTD又はGC/MS 強カチオン交換樹脂管 使用 種類 溶出溶媒 種類 流速 使用量 溶出液 脱水 濃縮 溶解 溶媒の種類 定容量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。

3. その他の方法	具体的に記入。50文字以内で記入する。
<HPLC、HPLC/MS> 機器 HPLC メーカー 型式	具体的に記入。 具体的に記入。
試料 注入量	数値(半角)入力。単位：μL。
カラム 充てん剤 種類 粒子径 内径 長さ	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：μm。 数値(半角)入力。単位：mm。 数値(半角)入力。単位：mm。
移動相 種類 水溶液の濃度	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：%。
グラジエント	コンボボックスより選択。( )は具体的に50文字以内で記入。
流量	数値(半角)入力。単位：mL/分。
カラム槽 温度	数値(半角)入力。単位：℃。
<HPLC> 検出 波長	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：実もnm。
<HPLC/MS (又はHPLC/MS/MS) > 機器 MS (MS/MS) 種類 メーカー 型式	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 具体的に記入。 具体的に記入。
イオン化 方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
検出 方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
定量用質量数	数値(半角)入力。
<GC/FTD、GC/MS> GC 型式	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
GC 検出器 検出器温度 <GC/FTD>で記入	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：℃
MS 型式 装置型式 イオン検出法 イオン化 方法 電圧 電流 イオン源温度 <GC/MS>で記入	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：V。 数値(半角)入力。単位：μA 数値(半角)入力。単位：℃

カラム 型式 内径 長さ 膜厚カラム	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mm。 数値(半角)入力。単位：m。 数値(半角)入力。単位：μm。
昇温条件	温度(°C)、温度保持(分)、昇温速度(°C/分)、昇温回数(回)とも数値(半角)入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値(半角)入力。単位：μL。 数値(半角)入力。単位：°C。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
キャリアガス 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。 単位：コンボボックスより選択。
メイクアップガス <GC/FTD>で記入	キャリアガスと同様。
<標準原液> 標準原液 区分 メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検出下限> 検出下限 装置 試料	HPLC又はGCへの注入量(ng)として数値(半角)入力。 捕集管試料中の量(μg)に換算した値を記入。
<検量線の作成等> 定量方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。測定用試料液への添加量(ng)で記入。
サグート 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。試料への添加量(ng)で記入。 数値(半角)入力。単位：%。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。 HPLC又はGCへの注入量(ng)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 最小量と同じ。
指示値 検量線の最高濃度 試料 空試験	数値(半角)入力。 「検量線最高濃度の指示値」、「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも同じ単位で記入。

<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃
<アルデヒド類分析の経験等> 分析の経験 参考とした分析方法	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

#### 4-6 分析結果報告書 [6]

表4-6 大気試料2 (捕集管吸着物試料)  
(アルデヒド類) (分析結果報告書 [6])

ふたつの方法で分析した場合には、ひとつの方法を分析結果報告書 [5] に記入し、他方はこの分析結果報告書 [6] に記入する (ひとつの方法で分析した場合には、分析結果報告書 [5] に記入し、この分析結果報告書 [6] は記入しない)

分析方法 (HPLC、HPLC/MS(/MS)、GC/FTD、GC/MS) により記入の必要な箇所が異なるため、該当する箇所に記入する。

分析結果報告書 [5] と同様であり、省略。

#### 4-7 分析結果報告書 [7]

表4-7 底質試料(フタル酸エステル類) (分析結果報告書 [7])

測定回数	1~5の整数(半角)入力。分析用試料のはかり取りからGC/MSの測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の回数)を記入。
分析結果(詳細項目)	実施要領 5 (2)の分析結果の表示方法に従って、乾燥試料中の各フタル酸エステル類の濃度 ( $\mu\text{g}/\text{kg}$ ) を記入。数値(半角)で測定回数分を入力。 分析を実施した場合には、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。
分析結果(詳細項目)	詳細項目と同様に記入。ただし、複数回測定では代表値 (例えば、平均値等) を1つ記入。

分析結果(乾燥減量)	参照項目と同様に記入。ただし、単位は%。 (注)分析結果(詳細項目)及び分析結果(詳細項目)については、この乾燥減量を用いて乾燥試料中の各フタル酸エステル類の濃度を算出する。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	<b>2回以上の測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、指示値等については、測定回数分を記入する。</b>
<試験液の調製> 試料量	数値(半角)入力。単位:g。測定回数分を記入。
試料からの抽出方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
・アセトニトリルによる溶媒抽出 溶媒 種類 1回当たりの時間 振とう 超音波 遠心分離 抽出回数 抽出液量	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:回。 数値(半角)入力。単位:mL。
抽出液のクリーンアップ方法 ・クリーンアップ方法 (GPC) 抽出液からの分取量	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。

GPCカラムの画分の濃縮方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
脱水方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
定容量	数値(半角)入力。単位：mL。
・クリーンアップ方法 (溶媒抽出)	
溶媒抽出	
抽出液からの分取量	数値(半角)入力。単位：mL。
塩化ナトリウム溶液の添加	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
1回当たりの溶媒の使用量	数値(半角)入力。単位：mL。
抽出時間 振とう	数値(半角)入力。単位：分。
抽出回数	数値(半角)入力。単位：回。
抽出液の脱水方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
濃縮方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
含水フロリジルカラム	
ヘキサンの流下	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
溶出	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
溶出液の処理 (硫黄の除去)	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
溶出液の脱水方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
濃縮方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
・定容量 (試験液の量)	数値(半角)入力。単位：mL。
<GC/MS、GC/ECD>	
GC 型式	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
GC 検出器	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
検出器温度	数値(半角)入力。単位：℃
<GC/ECD>で記入	
MS 型式	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
装置型式	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
イオン検出法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
イオン化 方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
電圧	数値(半角)入力。単位：V。
電流	数値(半角)入力。単位：μA
イオン源温度	数値(半角)入力。単位：℃
<GC/MS>で記入	
カラム 型式	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
内径	数値(半角)入力。単位：mm。
長さ	数値(半角)入力。単位：m。
膜厚カラム	数値(半角)入力。単位：μm。
昇温条件	温度(℃)、温度保持(分)、昇温速度(℃/分)、昇温回数(回)とも数値(半角)入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。

注入量 注入口温度 注入方式	数値(半角)入力。単位：μL。 数値(半角)入力。単位：℃。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
キャリアーガス 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。 単位：コンボボックスより選択。
メイクアップガス <GC/FTD>で記入	キャリアーガスと同様に記入。
<標準原液> 標準原液 区分 メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検出下限> 検出下限 装置 試料	GCへの注入量(ng)として数値(半角)入力。 試料中の濃度(μg/kg)に換算した値を記入。
<検量線の作成等> 定量方法	コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。
内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。測定用試料液への添加量(ng)で記入。
サゲート 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。( )は具体的に記入。 数値(半角)入力。試料への添加量(ng)で記入。 数値(半角)入力。単位：%。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。単位：ng。 GCへの注入量(ng)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 最小量と同じ。
指示値 検量線の最高濃度 試料 空試験	数値(半角)入力。 「検量線最高濃度の指示値」、「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

#### 4-8 アンケート

○ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー（図4-8.1参照）の右の[アンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

アンケートの内容は、試料ごと（3区分）になっています。

報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート状態	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]大気試料(PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
<input type="radio"/>	報告書[2]大気試料(PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
<input type="radio"/>	報告書[3]大気試料(PM2.5抽出液試料) (カチオン成分:イオンクロマトグラフ法)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
<input type="radio"/>	報告書[4]大気試料(PM2.5抽出液試料) (カチオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
<input type="radio"/>	報告書[5]大気試料(捕集管吸着物試料)(アルデヒド類)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
<input type="radio"/>	報告書[6]大気試料(捕集管吸着物試料)(アルデヒド類)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
<input type="radio"/>	報告書[7]底質試料(フタル酸エステル類)	未入力	無し	<input type="button" value="アンケート"/>
調査に関するアンケート		入力済		

図 4-8.1 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

いずれの試料とも、質問はコンボボックスより選択します。「2」を選択した場合には（ ）内には具体的な理由又は内容を記入してください。「確定」等の操作は必要ありません。

分析結果報告書の作成時に感じた点等	1. 良い 2. 改良すべき点、問題点等がある 内容（ ）
-------------------	----------------------------------

○環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート

環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー(図4-8.2参照)の下部[調査に関するアンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

質問はコンボボックスより選択し、( )内には具体的に記入してください。

アンケートは、各機関ひとつの回答となります(試料ごとの回答ではありません)。

「入力状態」については、質問の回答途中では「入力中」、回答が済みましたら「入力済み」と表示されます。「確定」等の操作は必要ありません。

報告書作成変更 報告書確認表示 報告書確定 チャート送付 報告書確定解除					
報告書一覧表					
	名称	入力状態	チャート状態	アンケート	
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]大気試料(PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法)	未入力	無し	アンケート	
<input type="radio"/>	報告書[2]大気試料(PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)	未入力	無し		
<input type="radio"/>	報告書[3]大気試料(PM2.5抽出液試料) (カチオン成分:イオンクロマトグラフ法)	未入力	無し		
<input type="radio"/>	報告書[4]大気試料(PM2.5抽出液試料) (カチオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)	未入力	無し		
<input type="radio"/>	報告書[5]大気試料(捕集管吸着物試料)(アルデヒド類)	未入力	無し	アンケート	
<input type="radio"/>	報告書[6]大気試料(捕集管吸着物試料)(アルデヒド類)	未入力	無し	アンケート	
<input type="radio"/>	報告書[7]底質試料(フタル酸エステル類)	未入力	無し	アンケート	
	調査に関するアンケート	入力済			

図 4-8.2 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

機関の区分 (ひとつを選択)	1. 地方公共団体 2. 民間分析機関 (公益法人を含む) 3. その他 ( )
アンケート回答者の担当 業務の区分 (ひとつを選択)	1. 環境測定分析業務の担当者 2. 環境測定分析業務の管理者 3. 環境測定分析委託業務の担当者 (委託する側の担当者) 4. 環境測定分析委託業務の管理者 (委託する側の管理者) 5. その他 ( )
調査に参加する目的 (複数回答可)	1. 信頼性の確保、精度の確認等 2. 分析方法・分析技術・分析機器の確認・改善等 3. 外部精度管理として (入札に対応) 4. 外部精度管理として (ISOに対応等) 5. 他機関との比較・情報交換 6. 職員の教育等 7. その他 ( )
調査の効果 (ひとつを選択)	1. 精度の確認が出きた (できる) 2. 分析技術の再確認、向上が出きた (できる)

	<p>3. 分析者の意識の向上、レベルアップとなった（なる）</p> <p>4. 問題点の検討、課題の確認ができた（できる）</p> <p>5. 他の機関の動向を知る、また比較ができた（できる）</p> <p>6. 顧客の信頼とPRになった（なる）（入札資格取得に利用等）</p> <p>7. その他（ ）</p>
<p>希望する試料・項目 （ふたつの試料・項目を記入）</p>	<p>a. 試料の形態</p> <p>1. 気体</p> <p>2. 液体</p> <p>3. 固体</p> <p>4. その他（ ）</p> <p>b. 媒体</p> <p>a. の試料の形態中での媒体をコンボボックスより選択し、その他では（ ）内に具体的に記入する。</p> <p>c. 項目群</p> <p>a. 試料の形態、b. 媒体中での項目群（1. ～10.）をコンボボックスより選択し、「10. その他」では（ ）内に具体的に記入する。</p> <p>d. 項目</p> <p>a. ～c. の項目群で、最も希望する1項目又は代表的な1項目を（ ）内に記入する（項目例を参照して記入する）。</p>
<p>試料のあり方 （ひとつを選択）</p>	<p>1. 現行のままでよい。</p> <p>2. （1. 大気試料、2. 水質試料、3. 底質・土壌試料、4. その他の試料）を増やした方がよい。</p> <p>3. （1. 大気試料、2. 水質試料、3. 底質・土壌試料、4. その他の試料）を減らした方がよい。</p> <p>4. その他の意見（ ）</p>
<p>分析結果の解析方法（統計的な手法等） （ひとつを選択）</p>	<p>1. 現行のままでよい。</p> <p>2. 改善等を行った方がよい。（改善点等： ）</p> <p>3. その他（ ）</p>
<p>調査結果説明会 （ひとつを選択）</p>	<p>1. 現行のままでよい。</p> <p>2. 改善等を行った方がよい。（改善点等： ）</p> <p>3. その他（ ）</p>
<p>外れ値に対するフォロー （ひとつを選択）</p>	<p>1. 現行のままでよい。</p> <p>2. 専門家による外れ値の精査（分析条件、クロマトグラム等による精査）は必要ない。</p> <p>3. 外れ値に関するアンケート調査は必要ない。</p> <p>4. 改善等を行った方がよい。（改善点等： ）</p> <p>5. その他（ ）</p>

これからの調査の必要性、あり方 (ひとつを選択)	1. このままの調査方法で継続する 2. 改善等を行った方がよい。(改善点等： ) 3. その他 ( )
その他 (自由記載)	本調査に関する希望する事項があれば記入してください。 ( )